

個人感

(慶應) 川越淳二

N兄 御無沙汰にすきまました。先日はお手紙ありがとうございました。早速御返事をとおもいながら雑事におわれてついで遅れて申附けありません。御丁寧ください。

さて本年の大会のありかたとして期日を二日間とし、さきに決定した課題のほかに、自由課題一村落共同体の問題にふれて」と対論一戰後十年の農村の変化」というテーマで、経済、社会構造、意識、バランスナリティなどの各側面からシンボジウムをこころみるという事務局の試案にはまつたく賛成です。おりかえしその旨を御連絡しようとおもつたのですが、べつに御依頼をうけた原稿と一緒にとおもつてあるうちにとうとう約束の期日をおくらせてしまったわけです。先日函々電車の

の意見は大要つきの点で一致したようでした。(1) 最近の大会の内容や雰囲気は仙台大会のそれにくらべてかなり形式的になりつつある。村研の大会で大切なことは、なごやかな雰囲がおもつたことを自由に発言して、しかもそれが直接研究に役だつような意見であることだとおもう。そのためにはやはり会期は二日にしてフォーマルにまたはインフォーマルに討論できる時間的余裕がほしい。そこで会場が地方であるばあいには一大都市のばあいでもできれば一宿舎を一ヶ所にして、夕食後くつろいだ気持である程度の統制のもとに心ゆくまで討論してみたい。

(2) これはとくに社会学の関係者につよく要望したいが、主題にかんする問題意識について、ほかの分野の研究者と話しあつてみると必要がある。問題意識の完全な統一は期待されないとしても、潜在的なものが顕在化され整理されるだけでもおおきな収穫といえよう。

(3) 以上の点から、個々の報告者の研究報告は具体的な内容あるいは調査結果とそれはもちろん重要なあるが、よりも問題意識、使用された手法、分析の方法などについて詳細な報告であることを期待したい。

尊々であつたように記憶しております。

もちろんそれはある意味でわたくしたちがきられた一部のものの想いといつてはなん

なかで受知学芸大学の後藤和夫氏におあいしましたのでこの件をお話して御意向をうかがつてみました。三〇分位の落着かない車中の立話であつたのであるのは同氏の御意見を誤解したところもあるかとおもいますが、二人の意見は大要つきの点で一致したようでした。

(1)

最近の大会の内容や雰囲気は仙台大会のそれにくらべてかなり形式的になりつつある。村研の大会で大切なことは、なごやかな雰囲がおもつたことを自由に発言して、しかもそれが直接研究に役だつような意見であることだとおもう。そのためにはやはり会期は二日にしてフォーマルにまたはインフォーマルに討論できる時間的余裕がほしい。そこで会場が地方であるばあいには一大都市のばあいでもできれば一宿舎を一ヶ所にして、夕食後くつろいだ気持である程度の統制のもとに心ゆくまで討論してみたい。

(2)

これはとくに社会学の関係者につよく要望したいが、主題にかんする問題意識について、ほかの分野の研究者と話しあつてみると必要がある。問題意識の完全な統一は期待されないとしても、潜在的なものが顕在化され整理されるだけでもおおきな収穫といえよう。

(3)

以上の点から、個々の報告者の研究報告は具体的な内容あるいは調査結果とそれはもちろん重要なあるが、よりも問題意識、使用された手法、分析の方法などについて詳細な報告であることを期待したい。

尊々であつたように記憶しております。

もちろんそれはある意味でわたくしたちがきられた一部のものの想いといつてはなん

ですが一であるかも知れません。それでこの

ような考え方が問題にされるべきかどうかといふことだけでも「研究通信」あるいは大会の席上でとりあげて頂ければ幸いだとおもつてあります。

それから、わたくし自身の研究の近況をのべようということですが、この方は一昨年金沢で開かれた関西社会学会大会の席上で報告させて頂いて以来、農民の価値観あるのは価値体系と、つねにそのつど、おもむかず、おもむかず、ソクダ・スコットの所説を基盤にさかん研究をつけできておりますが、どうやら今頃になってその実験をあきらかにする方法だけについてある程度お話しできる段階に到達したようでおもいます。けれども、実は分析の方法という重要な部分がはつきりしておりません。いままで資料は経験的に蒐集はしてきたものの、その分析や説明のために「農民はこうだ」という既成概念に頼りすぎていたような気がします。そして「何故にそうなのか」ということについても。

そこで最近は「農民はこうだ」ということを実証的に都市居住者との比較して考へようとしています。そして「何故にそうか」という、因子を社会的に個人的に対する一つのものにもとめようと努力しているわけです。けれども、この社会的因子も唯ひとつではないでしようし、その発見はまだまだ先のようですね。因子を社会的に個人的に対する一つのもので、いまのところお話しするほどのものがありません。この点について、学生はじめ会員諸氏から御教示頂けたらとおもつてます

中村先生の「村構造の研究」をはじめと

して、村若研究の成果が『國報』として公刊される最近のことです。「研究通信」にも書評の欄でもつゝて腹藏ない意見をのべてみたらどうでしようか、経済学、歴史学、社会学、等々の各分野の研究者がそれぞれの角度から書評をこころみることは著者にとつても会員一同にとつても有意義だとおもいますがいかがでしょうか。

約束の期限から大分遅れてしかも粗末な通
信文で「駅付湯薦送辞文」御詔勅疏請内黄傳
も大失禮。御詔勅疏請内黄傳

も大失禮。

又、前題